

女の新聞

クロサン

10月・25日発行

介護 213

大学と地域が協働し、「高・老・空」の団地を再生する取り組みを始めました。

山本孝則さん やまともと・たかのり

大東文化大学・環境創造学部教授



のは、団地に隣接する大東文化大学環境創造学部の面々で、その中心になつているのが教授の山本孝則さんだ。

「高島平の高齢化率は約30%。今後5年で50%に達すると予想されています。また04年時点での空き室は約500戸にも。高齢化、老朽化、空洞化」が進む地域コミュニティに

地域の大学ができるではないか?それが取り組みの第一歩でした。」

04年に、大学が掲げる多世代・多文化共生を推進させるプロジェクトとして

①は、まず同大・大学院の学生が團

地の賃貸住宅に住み、団地内にオーブンを作った。これは社会的責任をアピールできる。

②は、団地内のアパートは高まるし、加盟店が増えるば、学生や住人が團

地に住むアパートは高まると、加盟店は参加した。書道を活動して団地の人たちとかわる際に、この経験が役立つのはと期待してプロジェクト

③は、プロジェクトのマスター役を務める

「多世代の人などにか取り組むのは

楽しい経験」であり、学生、教員、住人が地域で暮す者同士として対等にかかわることも新鮮だという。今後は、団地内の高齢独居世帯を見守るしくみ作りにも取り組む予定だ。

プロジェクトは自治会などをを中心に歓迎され、住人にも認知されつつある、

と山本さん。当面の課題は、人が替わ

くみは②で、都市公共世界の基盤創出」という難解だが、具体的にはサンクと呼ぶ地域資源を団地、学生、大学や商店(加盟店)などの間に流通させ、社会貢献活動も両場経済をつなぐ。

くみは③で、プロジェクトを運営する「ボランティア活動に対し、団地はサンクでお礼を」、学生はサンクで家庭の一部を大学と私有する、というもの

の一部を大学と私有する、というもの

ボランティア活動への関心と意欲から参加した政治学科年の齊藤特史さん(20)はカフェのマスター役を務めた

ほか、祭りの企画実行にも携わった。

教授と学生の枠を超えて、山本さんを中心としたプロジェクト参加者として集い、率直な話し合いを重ねる池田さん(左)、齊藤さん(右)。信頼、敬意でつながる関係だ。



「高島平再びプロジェクト」を進める
団地で今、さまざまな取り組みが始まっている。

かつて東洋一のマンモス団地とよばれた高島平団地(東京都板橋区)で、

「高島平再生プロジェクト」を進めている。

住人の高齢化がすすむ各地のマンモ

ス団地で今、さまざまな取り組みが始まっている。

かつて東洋一のマンモス団地とよばれた高島平団地(東京都板橋区)で、

「高島平再生プロジェクト」を進める

団地の大学ができるではないか?

それが取り組みの第一歩でした。」

04年に、大学が掲げる多世代・多文

化共生を推進させるプロジェクトとし

て発足、今年の春からさまざまな活

動が具体的に始動した。

プロジェクトがめざすのは、①多世

代共住・多文化共生教育、②都市公共

世界の基盤創出教育、③自然との共生

教育」という3つの大きな柱。とりわけ

(1)(2)の試みには、同じような悩み

を抱える高齢化コミュニティで問題解

決に活かせうなヒントがいっぱいだ。

学生居住と「サンク」で活性化。

①は、まず同大・大学院の学生が團

地の賃貸住宅に住み、団地内にオーブンを作った。これは社会的責任をアピールできる。

②は、団地内のアパートは高まるし、加盟店が増えるば、学生や住人が團

地に住むアパートは高まると、加盟店は参加した。書道を活動して団地の人たちとかわる際に、この経験が役立つのはと期待してプロジェクト

③は、プロジェクトのマスター役を務める

「多世代の人などにか取り組むのは

楽しい経験」であり、学生、教員、住

人が地域で暮す者同士として対等にかかわることも新鮮だという。今後は、団地内の高齢独居世帯を見守るしくみ作りにも取り組む予定だ。

プロジェクトは育て、地域には

メリットを、団地には

空き部屋を減らして住

人世代を若返らせるメ

リットをもたらし、新たなコミュニティや、つながりの誕生も期待できる。

「留学生は日本社会に馴染み、日本人学生は

地域の大人と「わたりあう」機会が持てる。

将来、実家の手を継いで桜家や地域

も高齢化率が高い団地となってい

る。

72年に入居が始まった高島平

は、建築大賞日本の大賞を受賞だっ

た。36年後の今、都内ももっと

高齢化率が高い団地になってい

る。

留学生は日本社会に馴染み、日本人学生は

地域の大と「わたりあう」機会が持てる。

将来、実家の手を継いで桜家や地域

も高齢化率が高い団地となってい

る。

留学生は日本社会に馴染み、日本人学生は

地域の大と「わたりあう」機会が持てる。

将来、実家の手を継いで